

## 総合評価落札方式の改善等について

### ○ 制度の改善について

建設工事の入札で運用している「総合評価落札方式」は、試行運用開始から11年、本格実施から4年目を迎えたことから、制度のチェック（PDCA）を行います。

さらに、平成29年9月末、国から総合評価落札方式による入札のダンピング受注の防止に関する要請を受けたことを踏まえ、制度の改善に取り組みます。

### 1 「総合評価落札方式」の概要

経済性に配慮しつつ、価格及び品質が総合的に優れていると判断された落札者と契約を行うもので、入札価格と技術評価点から算出した評価値が最も高い業者を落札者としています。

本市では平成18年度に導入し、同26年度から現在の運用を実施しています。

#### (1) 制度概要（別添「北九州市建設工事総合評価落札方式ガイドライン」参照）

- ① 対象工事 予定価格が1億円以上の工事は原則適用
- ② 運用方法 難易度、技術的工夫の余地や予定価格等に応じた5タイプ
- ③ 評価項目 企業の評価、配置予定技術者の評価、企業の技術力の評価など、最大26項目

#### (2) 実績と成果

参考資料 1 参照

- ① 11年間（H18～28年度）に598件の建設工事に適用  
[H28年度：107件]
- ② 工事成績評定の評価点が高く、工事の品質確保に一定の成果を発揮
- ③ 工事業者の品質確保に対する関心が向上

### 2 【国からの要請】 総合評価落札方式へのダンピング防止対策の導入

総合評価落札方式による入札には、地方自治法施行令上、最低制限価格を設定することができないことから、「低入札価格調査制度の活用及び価格による失格基準の導入」等によるダンピング受注の防止を徹底するよう要請されています。

参考資料2 参照

- 国や他都市の実施状況を踏まえ、適切な制度設計を検討します。

### 3 総合評価落札方式の運用の検討

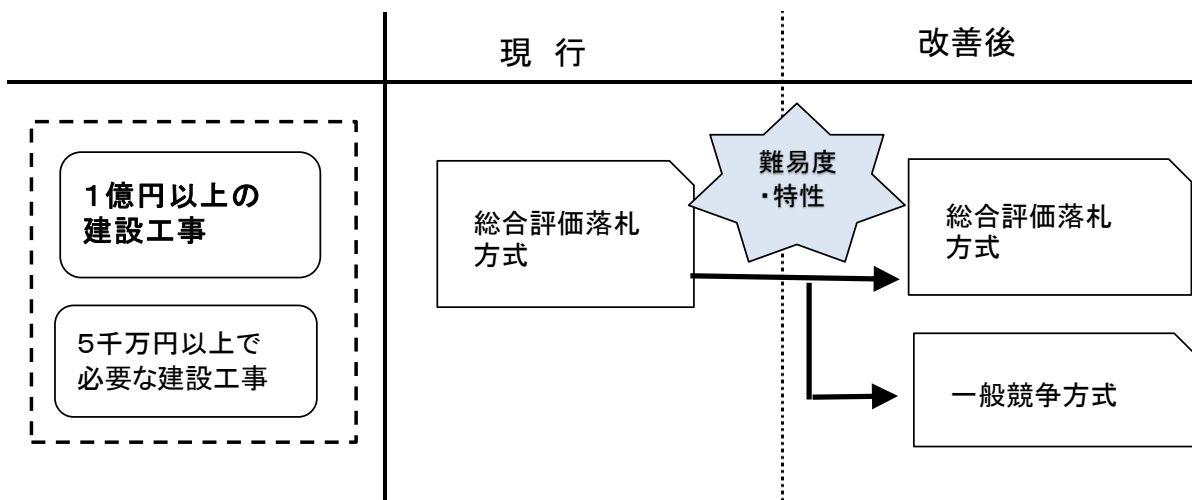
#### (1) 学識経験者、市内部からの主な意見

- ① 総合評価落札方式を適用した工事は、良好な品質で完了し好成績を得ている。
- ② PDCAの視点から事業を見直す姿勢は重要であり、有意義である。
- ③ 品質を確保しつつ、工事の特性に応じた入札制度の運用が必要。
- ④ 総合評価落札方式の適用は内容（難易度・特性）で判断すべき。

#### (2) 検討の方針

- ① 個々の建設工事の難易度・特性に応じた、運用を検討します。
- ② 工事の難易度・特性に応じた提案や技術力を適切に評価できる評価項目・配点を検討します。
  - 次のことに留意します。
    - (i) 建設業者に過度な負担を求めず、受発注者双方の事務の効率化やチャレンジ意欲の向上を図れる。
    - (ii) 最小の経費で最大の効果を得られる。

#### 【イメージ】



### 4 運用開始の予定

- 平成30年4月(予定)